

2016 年度秋学期 授 業 評 価 報 告

科目区分名	社会システム学科	科目
-------	----------	----

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）について総評

この科目の既往のデータから見ても、Q4「授業時間以外の学習に1週あたりどれくらいの時間を費やしましたか」では、全学平均値より低い傾向にあり、今学期も相変わらず、全学平均 0.65 (h/w) に対して 0.42 (h/w) であった。昨年度秋学期と比べても、わずかだが 0.05 (h/w) の減少がみられた。

しかし昨年度秋学期と比較した場合、Q4「授業時間以外の学習に1週あたりどれくらいの時間を費やしましたか」Q6「授業レベル」以外のすべての項目で、昨年度秋学期以上の平均スコアを記録しており、改善の傾向が見られる。

全学平均と比較した場合、Q1「授業理解度」、Q3「知的好奇心」、Q7「話し方」、Q8「シラバスとの合致」、Q9「集中できる雰囲気」（2015 は教員の配慮）が全学平均を上回っていた。一方、Q2「意欲」、Q6「授業レベル」は全学平均を下回っていたが、この全学平均からのプラスとマイナスはどちらも僅差の範囲内である。社会システム学科科目は、他学科科目と比べてクラス数が非常に多い、今回の授業アンケート実施クラス数で 237 クラス抱えており、全学の科目区分において、外国語科目の 260 クラスに次ぐ大科目である（音楽学科科目は、クラス数は 546 と多いが、その登録者数は 3146 人ととどまる。登録者数では、外国語科目の 6192 人に対して、社会システム学科科目は 8603 人でありもっとも多い）。クラス数が多いだけでなく、社会システム学科科目は、カバーする専門分野も多岐にわたり幅が広い。分母の大きいこれくらいの規模の大科目で、ほとんどの項目において全学平均と同程度の数字が得られたのは、十分評価されるべきところだと思われる。

なお、Q10 の DWCLA10 に関しては、「分析力」が 40.2 (%)、「思考力」が 61.3 (%) となっており、いずれも全学平均を上回っている。ただし全学平均より下回っているものの、「思いやる力」は、昨年度秋学期の 6.7 (%) から上昇している。

このような点が、本学科の特徴のひとつとして挙げられるが、他の項目でいずれもやや全学平均に及ばないのは、昨年度秋学期と変わらない。

以上、社会システム学科科目群の授業は全体として見ると、学生から一定水準の評価が得られる授業を提供しているといえる。ただし、講義系科目の授業、とりわけ大人数の授業にはまだ改善の余地がある（大人数講義科目になると、Q4 の値が顕著に下がるなど）。今後は、個々の教員の研鑽と努力によってさらなる改善がはかられていくことを基本としながらも、学部としては教員に FD 意識の向上を促し、研鑽のための環境を整えるといったことを通じ、いっそうの工夫が求められている。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。